

授業科目	肢体不自由教育【講義】		開講時期	後期
担当教員	稲田 八穂		単位	2
授業の目的と概要	肢体不自由児・者の教育について知ることを目的とする。また、肢体不自由児・者の心理的・医学的特徴を理解するとともに教育課程、指導や支援の概要について理解を深めていく。授業では肢体不自由児・者の教育の歴史と現状、肢体不自由児・者の基本的理解、教育課程、指導の概説を学び、指導と支援の概要を理解することを目標とする。			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・肢体不自由児・者の心理的・医学的特徴について説明できる。 ・肢体不自由児・者の教育について説明することができる。 ・肢体不自由児・者への指導や支援のあり方について述べる事が出来る。 			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(3) -②-3 人間が直面する心の諸課題について、改善・解決に有効な援助法について説明することができる。 この科目は小学校教員としての実務経験のある教員が担当しており、「授業の目的と概要」記載どおりの実践的教育を行います。			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	肢体不自由教育の現状に対する基本的理解	復習 肢体不自由教育の現状についてまとめる		
第2回	肢体不自由に対する基本的理解（医学的理解）	予習 資料を読んでおく 復習 医学的理解についてミニレポー		
第3回	肢体不自由に対する基本的理解（心理学的理解）	予習 資料を読んでおく 復習 心理学的理解についてミニレポ		
第4回	肢体不自由教育の歴史	予習 資料を読んでおく 復習 特別支援学校のホームページ検		
第5回	肢体不自由児における教育課程・指導法（乳幼児期）	予習 資料を読んでおく 復習 乳幼児の指導法についてまとめ		
第6回	肢体不自由児における教育課程・指導法（小学校）	予習 資料を読んでおく 復習 小学校の指導法についてまとめ		
第7回	肢体不自由児における教育課程・指導法（中学校）	予習 資料を読んでおく 復習 中学校の指導法についてまとめ		
第8回	肢体不自由児における教育課程・指導法（高等学校）	予習 資料を読んでおく 復習 高等学校の指導法についてまと		
第9回	教科指導（1）肢体不自由の学習における困難	予習 資料を読んでおく 復習 教科の指導法についてまとめる		
第10回	教科指導（2）障がい特性に対する工夫	予習 資料を読んでおく 復習 障がい特性の工夫を調べる		
第11回	教科指導（3）自立活動との関連から	予習 資料を読んでおく 復習 自利留活動についてミニレポー		
第12回	動作法について（1） からだところ	予習 資料を読んでおく 復習 動作法についてまとめる		
第13回	動作法について（2） 身体の動きを通した指導	予習 資料を読んでおく 復習 動作法についてミニレポート		
第14回	家族への支援	予習 資料を読んでおく 復習 家族の支援についてまとめる		
第15回	まとめ	予習 支援についてグループ討議 復習 支援のありかたについてまとめる		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	70％ 定期試験			
レポート	25％ ミニレポート3回			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	5％			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	資料を配布しますので、ファイルを準備してください。			
教科書	使用しない			
指定図書	特になし			
参考図書	日本肢体不自由教育研究会監修『肢体不自由教育の基本とその展開』 慶応義塾出版会 (文部科学省)『特別支援学校教育要領・学習指導要領』 海文堂出版			
オフィスアワー	月曜日、火曜日午前中	メールアドレス		

授業科目	保育原理【講義】		開講時期	前期
担当教員	原 陽一郎		単位	2
授業の目的と概要	<p>保育とは何かについて考察し、理解を深める。さらに、保育者、あるいは子どもに関わる者として必要な保育についての基本的な視点や姿勢を身につけることを目的とする。</p> <p>授業では、家庭や社会の変容から現代の保育所や幼稚園、幼保連携型認定こども園等の保育施設についての意義と目的について考える。「子ども・子育て関連3法」による保育制度及び幼稚園教育要領、保育所保育指針等について理解し、これからの保育、就学前教育について考察する。また、子どもの発達にとっての集団や活動・遊びの重要性についてもふれながら、子ども観や発達観を検討する。さらに、先人達の保育思想や構想した保育施設等を概観することによって、時代や国を越えて現代にも生かすべき子ども観や保育観などについて理解を深めていく。最後に、授業での学びから、わが国の保育・就学前教育の課題について、自分の言葉で説明できるようになる。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保育所、幼稚園、幼保連携型認定こども園等の保育施設の特徴を的確に説明することができる。 2. 制度としての保育所や幼稚園、幼保連携型認定こども園の目的や役割について、保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づいて的確に説明することができる。 3. 保育の内容と方法の基本について説明することができる。 4. 「子ども・子育て関連3法」にもとづく新制度の特徴を説明することができる。 5. 保育の思想とそれに伴う保育施設の歴史的変遷を理解し、説明することができる。 6. 現代の保育所や幼稚園、幼保連携型認定こども園等保育施設の課題について、自分の意見を述べることができる。 			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>福C (3) -②-2 人間の心の発達段階における諸課題について説明することができる。</p> <p>初C (3) -②-1 初等教育の専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。</p> <p>幼C (3) -②-1 幼児教育と保育の専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。</p> <p>この科目は保育士としての実務経験のある教員が担当しており、「授業の目的と概要」記載どおりの実践的教育を行います。</p>			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	保育とは何か～理念と概念について	教科書第1章を読む。講義を元に現在の自分の保育についての考えを整理する		
第2回	保育の歴史に学ぶ①ルソー、フレーベル、ロバート・オーエン	教科書第9章の該当箇所を読んで整理する。		
第3回	保育の歴史に学ぶ②日本の保育の歴史	教科書第9章の該当箇所を読んで整理する。		
第4回	子ども理解と保育①「子ども」とはどんな存在か	教科書第2章を読む。		
第5回	子ども理解と保育②現在の子どもの育ちの問題点	教科書第2章および資料を読んで整理する。		
第6回	保育の方法①生活と遊びを通して行うとは	教科書第4章を読む。		
第7回	保育の方法②遊びとは何か	教科書第4章をまとめる。		
第8回	保育の内容① 養護とは何か	教科書第3章を読む。		
第9回	保育の内容② 5領域の考え方	教科書第3章をまとめる		
第10回	保育の計画と評価	教科書第5章を読む。		
第11回	多様な子どもの理解と保育	教科書第10章を読む。		
	保育に関わる法律と制度① 学教教育法、児童福祉法、就学前の子どもに関する教育、保育等の総合的な提供の推進に関する法律	教科書第12章を読む		
	保育に関わる法律と制度② 幼稚園設置基準、児童福祉施設の設置及び運営に関する基準、幼保連携型認定こども園の学級の編制、職員、設備及び運営に関する基準	保育資料集からまとめる		
	保育者の専門性と資質向上	教科書第8章を読む		
	保育とは何か・再考	保育について考えがどのように変化してきたかについてまとめる		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	60％ 期末テスト 基本的事項についての知識を問う			
レポート	30％ 保育とは何か 講義受講前と受講後の変化について考える			
小テスト等	0％			
成果発表	0％			
受講態度他	10％ 意見発表等をもとに講義に対する参加意欲を評価する			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<ul style="list-style-type: none"> ・授業はシラバスの予定に沿って行う。教科書通りではないが、関連の章は記載しているので、教科書は授業前に読んでおくこと ・社会情勢や制度変更等により、授業計画を変更する場合がある。その都度伝達したうえで授業の予定を変更する。 ・授業中、随時質問するので、主体的授業参加をすること。 			
教科書	汐見稔幸・無藤隆・大豆生田啓友(2019) 「アクティベート保育学①保育原理」 ミネルヴァ書房 保育福祉小六法編集委員会(編集) 「保育福祉小六法 2019年版保育福祉小六法」 みらい			
指定図書	宍戸健夫(1988) 「日本の幼児保育一昭和保育思想史〈上〉〈下〉(青木教育叢書)」 青木書店			
参考図書	清水陽子・門田理世・牧野桂一・松井尚子編(2017) 「保育の理論と実践」 ミネルヴァ書房			
オフィスアワー	月曜日昼休み	メールアドレス		

授業科目	保育内容総論【演習】		開講時期	前期
担当教員	原 陽一郎・北村 真理		単位	2
授業の目的と概要	本講義では、幼稚園教育要領、保育所保育指針・認定こども園教育・保育要領の「保育目標」、「子どもの発達」、「保育の内容」を関連づけ、保育の全体的な構造を理解することが目的である。また、保育の基本は「生活」や「遊び」であることを、体験を通して認識し、深めていく。			
到達目標	<p>①保育の全体構造と保育内容5領域との関係を説明できる。</p> <p>②幼稚園教育、保育所保育の歴史の変遷から、現在実施されている保育の多様性の理由と問題点を具体的に述べる。</p> <p>③「遊び」の重要性を説明できる。</p>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>(1) -①自己の良心と社会の規範・ルールに従って行動できる。「倫理観・人間観」</p> <p>(2) -①多様な価値観を尊重し、他者につながるための意思疎通ができる。「コミュニケーション・スキル」</p> <p>(2) -③獲得した情報や知識を使って物事を筋立てて考えることができる。「論理的思考力」</p> <p>(2) -④社会の多様な問題を発見し、解決することができる。「問題解決力」</p> <p>(3) -②-2 幼児教育と保育の専門職に求められる資質や知識・技能を身に付けている。</p> <p>担当教員の中には保育士としての実務経験を有する者がおり、「授業の目的と概要」記載どおりの実践的教育を行います。</p>			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	幼稚園教育要領における保育内容のとらえ方	要領・指針の総則を読む		
第2回	保育所保育指針における保育内容のとらえ方	要領・指針の総則のポイントを理解する		
第3回	認定こども園教育・保育要領における保育内容のとらえ方③	要領・指針の第2章を読む		
第4回	子どもの認識や思考、動きを理解する① 鬼ごっこなど	遊びを通して鬼ごっこで育つ認識、思考、動きを把握し、まとめる		
第5回	子どもの認識や思考、動きを理解する② 伝承遊び	遊びを通して伝承遊びで育つ認識、思考、動きを把握し、まとめる		
第6回	子どもの認識や思考、動きを理解する③チャンバラ、コーン倒しなど攻撃的集団あそびの重要性について	攻撃性を合法的に発散する遊びで育つ認識、思考、動きを把握し、まとめる		
第7回	教材から生活力を育てる① 三つ編み縄跳びづくり	布の特性などを知ることなど教材から生活力を高める方法を考えてまとめる。		
第8回	教材から生活力を育てる② 雑巾縫い	生活の意識を高めるための教材としての活用法について考え、まとめる		
第9回	情報機器の活用法と課題	配付された資料を読み、情報機器の活用法と課題についてまとめる		
第10回	保育実践の動向① 3歳未満児	要領・指針の2017年改訂の内容についてまとめる		
第11回	保育実践の動向② 環境設定を重視した保育の留意点	どのような形態の保育があるのか、調べておくこと		
第12回	保育実践の動向③ 長時間保育	長時間保育について配付された資料を読む		
第13回	保育実践の動向④ 特別支援教育	特別支援教育について配付された資料を読む		
第14回	保育を評価する方法について	要領・指針の保育の評価の項目を読む		
第15回	小学校教科とのつながり	学習指導要領を読む		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	50％ 基本的事項について			
レポート	20％ 各講義内容についてのまとめ			
小テスト等	なし			
成果発表	20％ 製作物の提出・課題の達成度			
受講態度他	10％ 意見発表などの受講態度			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	とくに、遊びや生活についての講義には積極的な態度で参加すること。			
教科書	大豆生田啓友、渡辺英則、柴崎正行、増田まゆみ編『保育内容総論 第2版』ミネルヴァ書房（2014）			
指定図書	なし			
参考図書	幼少年教育研究所『遊びの指導 乳・幼児編』同文書院（2009）			
オフィスアワー	木曜日2限目	メールアドレス		

授業科目	保育内容演習（環境）【演習】	開講時期	後期
担当教員	原 陽一郎	単位	2
授業の目的と概要	保育内容の領域「環境」は、「周囲の様々な環境に好奇心や探究心を持ってかかわり、それらを生活に取り入れていこうとする力を養う」ことが目標である。その基盤として、乳幼児期の教育は保育者が「自発的、意欲的に関わられるような環境を構成」することによって「生活と遊びを通して総合的に」おこなう必要がある。よって本講義では、領域「環境」の教育目標達成のための「環境の構成力」を獲得するために、物的環境・人的環境・社会及び自然の事象についての理解を深めることを目的とする。		
到達目標	①周囲のさまざまな環境に興味を持ったことを実験・観察し、その面白さを具体的に説明する。 ②子どもの育ちにとって適切な環境を考える基礎とその理由を具体的に説明する。 ③指導案を作成する。		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(2) -③獲得した情報や知識を使って物事を筋道立てて考えることができる。「論理的思考力」 (2) -④社会の多様な問題を発見し、解決することができる。「問題解決力」 (3) -②-2 初等教育の専門職に求められる資質や知識・技能を身に付けている。 この科目は保育士としての実務経験のある教員が担当しており、「授業の目的と概要」記載どおりの実践的教育を行います。		
授業計画	授業内容	授業外学修など	
第1回	領域「環境」のねらいと内容	要領・指針の領域「環境」の項目を読む	
第2回	領域「環境」の指導上の留意点	要領・指針の領域「環境」の指導上の留意点についてまとめる	
第3回	領域「環境」の保育実践の動向	上記要領・指針を読み、領域「環境」について理解する	
第4回	領域「環境」の実践のために① 周囲環境での「面白さ」を見つける	実験・観察する事象を決め、これらについての資料を集めておく	
第5回	領域「環境」の実践のために② 「面白さ」の内容を明らかにする	実験・観察を実施し、その事象についての知識を具体化する	
第6回	領域「環境」の実践のために③ 「面白さ」を多面的に把握する	実験・観察を実施し、その事象についての知識を具体化する	
第7回	情報機器の活用法 体験を補完する	体験を補完するものとしての情報機器の活用法について理解する	
第8回	指導案の作成① 3歳未満児	3歳未満児の保育内容を検討して指導案を作成する	
第9回	指導案の作成② 3歳児	3歳児の保育内容を検討して指導案を作成する	
第10回	指導案の作成③ 4歳児	4歳児の保育内容を検討して指導案を作成する	
第11回	指導案の作成④ 5歳児	5歳児の保育内容を検討して指導案を作成する	
第12回	模擬保育① 3歳未満児、3歳児	模擬保育を実践し、そのふり返りを通して改善点を考える	
第13回	模擬保育② 4歳児、5歳児	模擬保育を実践し、そのふり返りを通して改善点を考える	
第14回	小学校教科とのつながり① 生活科との関連	生活科の学習指導要領を読む	
第15回	小学校教科とのつながり② 理科との関連	理科の学習指導要領を読む	
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など		
定期試験	40％ 基本的項目についての理解を問う		
レポート	なし		
小テスト等	なし		
成果発表	50％ ①興味を持った事象のプレゼン 30％ ②指導案の提出 20％		
受講態度他	10％ 講義で提起した各種体験の課題などの遂行状況、意見発表など		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	興味を持った事象については資料をプレゼンが必要となるので、丁寧に準備すること。 指導案は、そこで興味を持ったものから作成しても構わない。		
教科書	小田豊・湯川秀樹編 『保育内容 環境』 北大路書房(2009)		
指定図書	小泉英明・秋田喜代美・山田俊之『幼児期に育つ「科学する心」』 小学館(2007)		
参考図書	戸田拓夫 「おり紙ヒコーキ大集合BOOK」 いかだ社(2014)		
オフィスアワー	木曜2限（原）	メールアドレス	

授業科目	幼児教育研究【演習】	開講時期	前期
担当教員	原(陽)・原田(博)・今里(順)・中野(桂)	単位	1
授業の目的と概要	保育実習Ⅰ・児童福祉施設実習の実習指導としておこないます。実習の準備と共に児童福祉施設実習で何を学んでくるのかを具体化します。そして、実習後には、学んできた内容をもとに、児童福祉施設における保育士の役割をまとめ、保育士としての自己の課題を明確にします。		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・保育所、児童福祉施設等の役割や機能を具体的に理解する。 ・実習を通して利用者理解を深める。 ・保育の計画、観察、記録及び自己評価等について具体的に理解する。 ・保育士の業務内容や職業倫理について具体的に理解する 		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>(1) -④社会の一員としての意識をもってその発展に関わることができる。「市民としての社会的責任・勤労観」</p> <p>(2) -①多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。「コミュニケーション・スキル」</p> <p>(2) -④社会の多様な問題を発見し、解決することができる。「問題解決力」</p> <p>(3) -⑥人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。「幅広い視野」</p> <p>(3) -②-2 幼児教育と保育の専門職に求められる資質や知識・技能を身に付けている。</p> <p>担当教員の中には保育士としての実務経験を有する者がおり、「授業の目的と概要」記載どおりの実践的教育を行います。</p>		
授業計画	授業内容	授業外学修など	
第1回 説明	保育者の心構えや実習生に必要な書類/オリエンテーション、実習生調書や腸内細菌検査などの	実習生調書の作成	
第2回	実習施設の法的根拠、運営に関する基準などの整理	児童福祉法、児童福祉施設の運営に関する基準などをまとめる	
第3回	実習施設の利用者の理解	実習施設の利用者の特徴について整理する	
第4回	実習計画書の作成	実習計画書の完成・提出	
第5回	実習目標の確認・実習準備の確認	実習目標の整理・確認	
第6回	児童福祉施設実習直前オリエンテーション	実習準備の確認	
第7回	実習の整理① 実習施設の設備等に関するまとめ	実習施設の施設の状況の整理	
第8回	実習の整理② 実習施設の利用者の状況等に関するまとめ	利用者の状況に関する整理	
第9回	実習の整理③ 実習施設の職員の状況に関するまとめ	実習施設の職員構成と役割に関するまとめ	
第10回	実習報告会に向けて①施設種別毎のまとめ	施設種別毎に課題を整理する	
第11回	実習報告会に向けて②支援等の整理	施設種別毎に利用者との支援の在り方について整理する	
第12回	実習報告会①	施設種別毎に課題を整理し、発表する	
第13回	実習報告会②	施設種別毎に課題を整理し、発表する	
第14回	実習報告会	施設種別毎に課題を整理し、発表する	
第15回	まとめ 保育実習Ⅱ・Ⅲに向けて	実習で把握した自己課題を元に保育実習Ⅱ・Ⅲに向けて準備する	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など		
定期試験	なし		
レポート	60% 実習計画書10%、実習報告会を基にしたふり返し50%		
小テスト等	なし		
成果発表	30% 実習報告会での発表		
受講態度他	10% 意見発表などをもとに講義への参加意欲を得点化します		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	提出物は必ず期限までに必ず出すようにしてください。授業中の積極的な質問は大いに歓迎します。授業内容や担当者が前後することがあります。		
教科書	社会福祉小六法		
指定図書	特になし		
参考図書	二階堂邦子 編著(2016) 「教育・保育・施設実習テキスト 第3版」 建帛社		
オフィスアワー	担当者・原 火曜日5限終了後	メールアドレス	

授業科目	保育相談支援【講義】		開講時期	前期
担当教員	原 陽一郎		単位	2
授業の目的と概要	この科目は保育士資格取得のための必修科目であり、保育に関する専門的知識・技術を背景としながら、保護者が支援を求めている子育ての問題や課題に対して保育相談、助言ができるようになることを目的とする。 このために、現代の保護者・育児をとりまく状況の理解とともに、保育相談支援の意義・基本と、事例を通して実践のための自己の課題を把握していく。			
到達目標	① 保育相談支援の意義や基本的視点について理解する ② 保育相談支援の実際を学び、内容や方法を理解する ③ 保護者支援の基本を理解する ④ 保育所等児童福祉施設における保護者支援の実際について理解する			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(2) -①多様な価値観を尊重し、他者をつなげるための意思疎通ができる。「コミュニケーション・スキル」 (2) -④社会の多様な問題を発見し、解決することができる。「問題解決力」 (3) -②-2 幼児教育と保育の専門職に求められる資質や知識・技能を身に付けている。 この科目は保育士としての実務経験のある教員が担当しており、「授業の目的と概要」記載どおりの実践的教育を行います。			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	オリエンテーション 保育相談支援の意義と基本視点 保育相談支援とは何か	ふだんの生活や実習で見かけた親子関係をまとめる		
第2回	保育士の業務と保育相談支援の原理	教科書第1章p. 1～19を読む		
第3回	保育相談支援の価値と倫理	全国保育士会倫理綱領を読む		
第4回	信頼関係を築く受容と自己決定、相談の実際事例	信頼関係の捉え方を理解する・ラポールについて考察する		
第5回	子どもの最善の利益の重視 子どもの成長の喜びの共有、相談の実際事例	子どもの権利条約を読む		
第6回	社会資源との連携・協力、相談の実際事例	連携・協力の対象となる地域資源や関係機関を復習する		
第7回	保育を基盤とした保育相談支援、相談の実際事例	保護者の気になる姿をまとめる		
第8回	保育相談支援の方法と技術、相談の実際事例	保育相談支援で必要とされる保育技術についてまとめる		
第9回	保育相談支援の展開、相談の実際事例	援助行為の道筋を復習する		
第10回	保育所における保育相談支援、相談の実際事例	これまでまとめた事例の支援の方法を検討する		
第11回	地域子育て支援における保育相談支援、相談の実際事例	子育てサロン、子育て支援センターなどの役割を復習する		
第12回	児童福祉施設における保育相談支援、相談の実際事例	児童福祉施設の目的と利用者の状況について復習する		
第13回	子どもの虐待について、相談の実際事例	虐待が起きる要因について復習する		
第14回	子育て相談のポイント	現在の保護者の状況について、新聞などの記事を集める		
第15回	保育相談支援の評価	保育要録について復習する		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	60％ 基本的事項について			
レポート	30％ 事例レポートの作成			
小テスト等	0％			
成果発表	0％			
受講態度他	10％ 挙手・発表などの受講態度を評価する			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	将来、保護者・児童の指導者となるにふさわしい履修態度を求める			
教科書	柏女壺峰・橋本真紀 「保育相談支援（新・プリマーズ 保育）」 ミネルヴァ書房(2016)			
指定図書	なし			
参考図書	大谷保育協会 「ほいくしんり」 エイデル研究所(2010～)			
オフィスアワー	火曜日 5限目	メールアドレス		

授業科目	保育実習指導Ⅰ【演習】		開講時期	後期
担当教員	原(陽)・原田(博)・上原(真)・北村(真)		単位	2
授業の目的と概要	<p>保育実習指導Ⅰにおいては、保育実習を円滑に進めていくための知識・技術を習得し、保育士としての基礎的な実践力を養成することを目的としている。主として保育実習Ⅰ（児童福祉施設）にむけて必要な知識、技能や倫理などについて修得し、各自の実習課題を明確化していく。本授業は、教科書のほかに、視聴覚教材や実際の実習日誌等により具体的、実践的に実習準備を進めていく。</p> <p>本授業そのものが実習の事前指導であることを自覚し、主体的に学修していく。「保育実習Ⅰ」を実施するにあたって必ず受講しなければならない科目となっている。さらに3年前期の「保育実習指導Ⅱ」の基礎ともなる。</p> <p>保育実習に際して、本実習指導の他に学内での実習オリエンテーション、各実習施設における事前指導等も授業時間外に実施される。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 実習生として保育現場に入るための課題を明確に持つことができる。 2. 挨拶、返事、言葉遣い、姿勢等実習生としての基本を身につける。 3. 手遊びや絵本の読み聞かせなど対象者を考慮して実践できる。 4. 実習日誌の記入、指導案の作成を適切にできる。 5. 対象年齢や状況に応じた教材研究ができる。 6. 実習後の反省により、実習での学びと次の実習にむけての課題を明確にすることができる。 			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<ol style="list-style-type: none"> (1) -②自分の感情や欲求をコントロールして行動できる。「自己管理能力」 (2) -⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。「幅広い視野」 (3) -①自己にふさわしいキャリアを構想できる。「キャリアを構想する力」 (3) -②-2 幼児教育と保育の専門職に求められる資質や知識・技能を身に付けている。 <p>担当教員の中には保育士としての実務経験を有する者がおり、「授業の目的と概要」記載どおりの実践的教育を行います。</p>			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1・2回	保育実習の目的と意義・実習生調書の作成	実習についての理解・実習生調書の完成		
第3・4回	保育実習日誌の書き方・記録をとることの意味	実習日誌の完成・提出		
第5・6回	実習先についての事前学習・実習生としての心得・実習計画書作成	実習施設の概要についての整理・実習のための準備		
第7回	見学実習直前OR 見学実習の目的の確認	実習計画書の確認		
第8・9回	保育所見学実習	実習日誌の作成		
第10・11回	児童福祉施設見学実習	実習日誌の作成		
第12・13回	見学実習のふり返り	実習日誌の提出・実習計画書に基づくふり返りの作成・提出		
第14回	指導案作成の基礎と教材研究①	指導案作成		
第15回	指導案作成	指導案の完成		
第16・17回	模擬保育の実践①	模擬保育の準備・練習、実践からの学びのまとめ		
第18・19回	模擬保育の実践②	模擬保育の準備・練習、実践からの学びのまとめ		
第20回	保育実習Ⅰ（保育所）の事前学習	実習園に関する情報の収集など		
第21回	保育実習Ⅰ（保育所）の実習計画書の作成	実習計画書の作成・提出		
第22回	実習にむけての直前準備：お礼状の書き方など	保育所実習にむけての準備		
第23回	保育所実習にむけてのまとめ	保育所実習の準備の確認		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	—			
レポート	60% 見学実習日誌（保育所・施設）20%、見学実習のまとめ（保育所・施設）20%、教材研究のまとめ10%、保育実習Ⅰ（保育所）実習計画書10%			
小テスト等	—			
成果発表	30% 模擬保育の実践			
受講態度他	10% 意見の発表等で授業への参加態度を確認する。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>主体的に授業に参加をすること。</p> <p>授業は4名の教員によって行い、状況によってシラバスの順番や内容が変更される場合がある。その場合は事前に受講生に連絡し、実施する。</p> <p>無断欠席、遅刻、早退は認められない。3回以上の欠席、遅刻については、状況によっては特別な課題を付与するこや、実習延期となる場合がある。授業中に手遊びや絵本の読み聞かせ、設定保育の模擬保育等保育実技の発表を行う。</p>			
教科書	安部和子・増田まゆみ・小櫃智子 『最新保育講座 保育実習（第2版）』 ミネルヴァ書房 2014年 大元千種（監修）『書き方・あそび・保育のコツがわかる 実習の日誌と指導案サポートブック』ナツメ社 2016年			
指定図書	石橋裕子・林幸範（編集）『新訂 幼稚園・保育所・児童福祉施設等実習ガイド』 同文書院 2013年 小林育子・長島和代・権藤真織・安齊智子 『幼稚園・保育所・施設 実習ワーク』 萌文社 2006年			
参考図書	田上貞一郎 2010 保育者になるための国語表現 萌文書林			
オフィスアワー	保育実習指導担当（原） 木曜日昼休み	メールアドレス		

授業科目	保育実習指導Ⅱ【演習】		開講時期	後期
担当教員	原(陽)・原田(博)・中野(桂)・今里(順)		単位	1
授業の目的と概要	<p>保育実習指導Ⅰの内容を受け、実習の反省、評価、総括を行う。その上で、保育実習Ⅱ(保育所)および保育実習Ⅲにむけて、保育実習Ⅰで生じた課題をさらに明確化し、自らの課題設定のもとに知識・技術の修得等を深め、将来の保育士としての実践的力量を高めていくことを目的とする。</p> <p>実習振り返りや記録、指導案の相互検討、および模擬保育による実践をもとにした検討など受講生の主体的かつ協同の学修を行う。つねに主体的に授業に取り組むことが期待される。</p> <p>本授業の他に学内での実習オリエンテーション、各保育実習先において事前指導等が実施される。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 実習にむけての課題、計画、準備を主体的に取り組むことができる。 2. 健康管理、挨拶、返事、言葉遣い、姿勢等実習生としての基本を確実に身につける。 3. 自分の実践をふりかえり課題を明確にし、自ら取り組む。 4. 他の実習生の模擬保育等の実践についての確に分析することができる。 5. 保育実習で適切な配慮を行うことができるように、子どものことばや行動を理解し意味づけることができる。 6. 活動指導案の作成、教材研究について習熟し、指導案作成と実践をすることができるようになる。 			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>(1) -②自分の感情や欲求をコントロールして行動できる。「自己管理能力」</p> <p>(2) -⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。「幅広い視野」</p> <p>(3) -①自己にふさわしいキャリアを構想できる。「キャリアを構想する力」</p> <p>(3) -②-2 幼児教育と保育の専門職に求められる資質や知識・技能を身に付けている。</p> <p>担当教員の中には保育士としての実務経験を有する者がおり、「授業の目的と概要」記載どおりの実践的教育を行います。</p>			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	授業概要および保育実習Ⅰの振り返りを踏まえて保育実習Ⅱ・Ⅲの実習計画	授業での課題：各自の実習課題設定、教材研究		
第2回	保育実習Ⅱ・Ⅲにむけて実習生調書と実習計画書作成	授業での課題：実習施設の事前学習、実習生調書、計画書作成		
第3回	実習施設の特徴と役割	授業での課題：実習にむけての事前学習、教材研究等		
第4回	記録および実習日誌について	授業での課題：実習にむけての教材研究		
第5回	教材研究と部分指導案作成(指導案ラフスケッチ)…製作活動と運動遊び	授業での課題：部分実習指導案のラフスケッチ…製作活動と運動遊び		
第6回	指導案作成	授業での課題：指導案にもとづく模擬保育にむけての準備		
第7回	実習にむけて① 模擬保育および検討(その1 導入について)	授業での課題：模擬保育準備、全日指導案(責任実習)の下書き		
第8回	実習にむけて② 模擬保育および検討(その2 展開について)	授業での課題：模擬保育準備、全日指導案(責任実習)作成		
第9回	実習にむけて③ 模擬保育および検討(その3 まとめについて)	授業での課題：全日指導案(責任保育)作成		
第10回	実習にむけて④ 全日指導案(責任保育)の検討および実習に向けての確認(お礼状と持ち物チェック等)	授業での課題：実習準備		
第11回	実習事後指導①実習の総括と評価 自己評価	授業での課題：実習の振り返り		
第12回	実習事後指導②実習の総括と評価② 実習報告書の作成	授業での課題：保育実習Ⅱ、Ⅲの実習報告書の作成		
第13回	実習事後指導③施設種別毎のグループワーク	授業での課題：実習報告書を基にした課題の共有と発表準備		
第14回	実習事後指導④施設種別毎の課題の共有	授業での課題：グループごとの共有課題の発表に向けた準備		
第15回	保育士としての自己課題の明確化	授業での課題：自己の課題についての検討		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	—			
レポート	70% 実習報告書・事後指導のまとめ			
小テスト等	—			
成果発表	20% 施設毎の課題についてのまとめ			
受講態度他	10% 意見発表や配布用紙で授業への参加態度を確認			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>主体的な授業への参加と課題意識を持つことを期待する。</p> <p>原則として無断欠席、遅刻、早退は認められない。状況によっては特別に課題を付加する。教科書を使用するが、授業の進行は教科書どおりではない。また、上記の授業計画は場合によっては変更することがある。授業外に開催する実習オリエンテーションにも必ず参加すること。所定の服装、身だしなみに注意すること。</p>			
教科書	<p>安部和子・増田まゆみ・小櫃智子『最新保育講座 保育実習(第2版)』ミネルヴァ書房 2014年</p> <p>大元千種(慣習)『書き方・あそび・保育のコツがわかる 実習の日誌と指導案サポートブック』ナツメ社 2016年</p>			
指定図書	財団法人幼少年教育研究所(編著)『遊びの指導 乳・幼児編』同文書院 2009年			
参考図書	授業で紹介する。			
オフィスアワー	実習指導担当教員 原 月曜日昼休み	メールアドレス		

授業科目	保育実習Ⅰ【実習】		開講時期	通年
担当教員	原 陽一郎		単位	4
授業の目的と概要	<p>保育実習は、これまで大学において学習してきた心理学、教育学、保育、福祉、保健、保育内容等の専門科目・教養科目等の理論を基礎として、保育の実際にあたり、指導技術を実践する。それによって、理論と実践の統合をはかり、専門的知識・技術および豊かな人間性をかねそなえた保育士を育成することを目的とする。</p> <p>保育実習Ⅰでは、保育所実習において、保育所生活に参加し、乳幼児への理解を深める。それとともに、保育所の機能とそこでの保育士の職務及び他の職員との連携について学ぶ。施設実習においては、居住型児童福祉施設等の生活に参加し、子どもへの理解を深める。それとともに、居住型児童福祉施設等の機能とそこでの保育士の職務及び他の職員との連携について学ぶ。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 実習保育所、施設の日課と職員を理解する。 2. 保育所の乳幼児や児童福祉施設利用者、職員に積極的に関わることができる。 3. 実習生としての謙虚さと積極性を持ち、状況にふさわしい言動を取ることができる。 4. 問題意識や実習課題をもって実習に取り組み、今後の課題を明確にすることができる。 			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>(1) -②自分の感情や欲求をコントロールして行動できる。「自己管理能力」 (2) -⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。「幅広い視野」 (3) -①自己にふさわしいキャリアを構想できる。「キャリアを構想する力」 (3) -②-2 幼児教育と保育の専門職に求められる資質や知識・技能を身に付けている。</p> <p>この科目は保育士としての実務経験のある教員が担当しており、「授業の目的と概要」記載どおりの実践的教育を行います。</p>			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	保育所での実習についての事前指導：学内オリエンテーション	課題：実習準備、実習生調書、保育実習計画書		
第2回	保育所での実習についての事前指導：実習施設	課題：実習準備		
第3回	保育所での実習についての事前指導：学内最終オリエンテーション	課題：実習準備		
第4回	実習10日間	課題：保育所の指導と各自の実習計画に基づく実習		
第5回	実習10日間	課題：保育所の指導と各自の実習計画に基づく実習		
第6回	実習10日間	課題：保育所の指導と各自の実習計画に基づく実習		
第7回	事後指導：実習保育所内での反省会	課題：『保育実習日誌』整理、「保育実習報告」、「園レポート」		
第8回	事後指導：大学内での総括と今後の課題	課題：お礼状、反省と次の実習にむけての課題		
第9回	居住型児童福祉施設での実習についての事前指導：学内オリエンテーション	課題：実習準備、実習生調書、保育実習計画書		
第10回	居住型児童福祉施設での実習についての事前指導：学内直前オリエンテーション	課題：実習準備		
第11回	実習10日間	課題：実習施設の指導と各自の実習計画に基づく実習		
第12回	実習10日間	課題：実習施設の指導と各自の実習計画に基づく実習		
第13回	実習10日間	課題：実習施設の指導と各自の実習計画に基づく実習		
第14回	事後指導：実習保育所内での反省会	課題：『保育実習日誌』整理、「保育実習報告」、「園レポート」		
第15回	事後指導：大学内での総括と今後の課題	課題：お礼状、反省と次期実習にむけての課題		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	0%			
レポート	30% 実習先事前学習（10%）、実習生調書・実習計画書（10%）、実習報告書・実習園レポート（10%）			
小テスト等	0%			
成果発表	0%			
受講態度他	70% オリエンテーション出席（10%）、実習評価（50%）、実習日誌（10%）			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>保育所と児童福祉施設の両方での実習を行わなければならない。</p> <p>提出物の期日を厳守、無断欠席、遅刻厳禁。健康管理に注意。報告、連絡、相談の徹底</p>			
教科書	なし			
指定図書	厚生労働省（編）『保育所保育指針 解説書』 フレーベル館 2008年			
参考図書	適宜紹介する。			
オフィスアワー	（実習指導担当 原）月曜日昼休み		メールアドレス	

授業科目	保育実習Ⅱ【実習】		開講時期	通年
担当教員	原 陽一郎		単位	2
授業の目的と概要	<p>これまで大学において学習してきた専門科目・教養科目の理論を基礎にして、保育の実際にあたり、私道技術を実践する。それによって理論と実践の統合をはかり、専門知識・技術および豊かな人間性をかねそなえた保育士を育成することを目的とする。自らの保育課題を明確にし、さらなる学びへと発展させていく。保育実習Ⅱでは、保育所保育を実践し、保育士として必要な資質・能力・技術を習得する。子どもや家庭の福祉ニーズに対する理解を深め、判断力を養うとともに、子育て支援に必要な能力を培う。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 問題意識や実習課題をもって実習に取り組み、保育所の保育を実践する。 2. 保育所の保育士として必要な資質、能力、技術等を習得し、部分保育、一日保育で生かすことができる。 3. 保育所の職員の協働体制について理解を深める。 4. 保育所の行う子育て支援について理解を深める。 5. 今後の課題を明確にすることができる。 			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>(1) -②自分の感情や欲求をコントロールして行動できる。「自己管理能力」 (2) -⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。「幅広い視野」 (3) -①自己にふさわしいキャリアを構想できる。「キャリアを構想する力」 (3) -②-2 幼児教育と保育の専門職に求められる資質や知識・技能を身に付けている。</p> <p>この科目は保育士としての実務経験のある教員が担当しており、「授業の目的と概要」記載どおりの実践的教育を行います。</p>			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回 事前指導：学内オリエンテーション（保育所実習…10日間）		実習準備、実習生紹介状、保育実習計画書		
第2回 事前指導：学内直前オリエンテーション		課題：実習準備		
第3回 事前指導：実習保育所でのオリエンテーション		課題：実習準備		
第4回 保育所実習1日目		課題：実習保育所からの指導と各自の実習計画による		
第5回 保育実習2日目		課題：実習保育所からの指導と各自の実習計画による		
第6回 保育実習3日目		課題：実習保育所からの指導と各自の実習計画による		
第7回 保育実習4日目		課題：実習保育所からの指導と各自の実習計画による		
第8回 保育実習5日目		課題：実習保育所からの指導と各自の実習計画による		
第9回 保育実習6日目		課題：実習保育所からの指導と各自の実習計画による		
第10回 保育実習7日目		課題：実習保育所からの指導と各自の実習計画による		
第11回 保育実習8日目		課題：実習保育所からの指導と各自の実習計画による		
第12回 保育実習9日目		課題：実習保育所からの指導と各自の実習計画による		
第13回 保育実習10日目		課題：実習保育所からの指導と各自の実習計画による		
第14回 事後指導：実習保育所での実習の総括		課題：『保育実習日誌』、「保育実習報告」、「園レポート」		
第15回 事後指導：大学での実習の総括		課題：お礼状、実習反省と今後の課題		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	0%			
レポート	30% 実習先についての事前学習（10%）、実習生調書・実習計画書（10%）、実習報告書・園レポート（10%）			
小テスト等	0%			
成果発表	0%			
受講態度他	70% オリエンテーション出席（10%）、実習評価（50%）、保育実習日誌（10%）			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	保育実習Ⅱと保育実習Ⅲを同時に履修することはできない。提出物の期日を厳守。無断欠席。遅刻厳禁。健康管理に注意。報告、連絡、相談の徹底。			
教科書	なし			
指定図書	『平成29年告示 幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領』 チャイルド本社 2017年			
参考図書	適宜紹介する。			
オフィスアワー	(実習指導担当 原) 月曜日昼休み	メールアドレス		

授業科目	保育実習Ⅲ【実習】	開講時期	通年
担当教員	原 陽一郎	単位	2
授業の目的と概要	<p>保育実習は、これまで大学において学習してきた専門科目・教養科目等の理論を基礎として、保育の実際にあたり、指導技術を実践する。それによって、理論と実践の統合をはかり、専門的知識・技術および豊かな人間性をかねそなえた保育士を育成することを目的とする。さらに自らの保育課題を明確にし、さらなる学びへと発展させていく。</p> <p>保育実習Ⅲでは、保育所以外の児童福祉施設、その他社会福祉施設の養護を実践し、保育士として必要な資質・能力・技術を習得する。子どもや家庭の福祉ニーズに対する理解を深め、判断力を養うとともに、子育て支援に必要な能力を養う。</p>		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 問題意識や実習課題をもって実習に取り組み、児童福祉施設、その他の社会福祉施設の保育を実践する。 2. 児童福祉施設、社会福祉施設の保育士として必要な資質、能力、技術等を習得し、実習で生かすことができる。 3. 福祉施設の職員の協働体制について理解するとともに、その中での保育士の役割について考える。 4. 児童福祉施設の行う子育て支援について理解を深める。 5. 今後の課題を明確にすることができる。 		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>(1) -②自分の感情や欲求をコントロールして行動できる。「自己管理能力」 (2) -⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。「幅広い視野」 (3) -①自己にふさわしいキャリアを構想できる。「キャリアを構想する力」 (3) -②-2 幼児教育と保育の専門職に求められる資質や知識・技能を身に付けている。</p> <p>この科目は保育士としての実務経験のある教員が担当しており、「授業の目的と概要」記載どおりの実践的教育を行います。</p>		
授業計画	授業内容	授業外学修など	
第1回 事前指導：大学内オリエンテーション		課題：実習準備、実習調査、実習計画書	
第2回 事前指導：大学内直前オリエンテーション		課題：実習準備	
第3回 事前指導：実習施設オリエンテーション		課題：実習準備	
第4回 保育実習1日目		課題：実習施設からの指導と各自の実習計画による	
第5回 保育実習2日目		課題：実習施設からの指導と各自の実習計画による	
第6回 保育実習3日目		課題：実習施設からの指導と各自の実習計画による	
第7回 保育実習4日目		課題：実習施設からの指導と各自の実習計画による	
第8回 保育実習5日目		課題：実習施設からの指導と各自の実習計画による	
第9回 保育実習6日目		課題：実習施設からの指導と各自の実習計画による	
第10回 保育実習7日目		課題：実習施設からの指導と各自の実習計画による	
第11回 保育実習8日目		課題：実習施設からの指導と各自の実習計画による	
第12回 保育実習9日目		課題：実習施設からの指導と各自の実習計画による	
第13回 保育実習10日目		課題：実習施設からの指導と各自の実習計画による	
第14回 事後指導：実習施設での実習反省		課題：『保育実習日誌』整理、「保育実習報告」、「園レポート」	
第15回 事後指導：大学内での実習報告とまとめ		課題：お礼状、反省と今後の課題	
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など		
定期試験	0%		
レポート	30% 実習先についての事前学習（10%）、実習生調査書・実習計画書（10%）、実習報告書・園レポート（10%）		
小テスト等	0%		
成果発表	0%		
受講態度他	70% 直前オリエンテーション出席（10%）、実習評価（50%）、保育実習日誌（10%）		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>保育実習Ⅱと保育実習Ⅲを同時に履修することはできない。</p> <p>提出物の期日を厳守。無断欠席。遅刻厳禁。健康管理に注意。報告、連絡、相談の徹底。</p>		
教科書	なし		
指定図書	なし		
参考図書	適宜紹介する。		
オフィスアワー	(実習指導担当 原) 月曜日昼休み	メールアドレス	

授業科目	乳児保育【演習】	開講時期	前期
担当教員	原田 博子	単位	2
授業の目的と概要	<p>乳児保育の理念と役割を知る。 保育所、乳児院等における乳児保育の現状と課題について理解する。 3歳未満児の生活と遊びについて理解する。 乳児保育の実際を理解する。</p> <p>この授業は乳児保育についての理解を深めるため、教科書を中心に乳児保育の置かれている現状から実際の保育内容まで詳細に学ぶ。</p>		
到達目標	<p>乳児保育の役割について述べることができる。 月齢に応じた発達を理解とともに生活と遊びについて具体的に述べるができる。 さまざまな保護者への対応の必要性について理解することができる。</p>		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>(1) -③他者と協働して課題に取り組むことができる。「チームワーク力」 (3) -②-2 幼児教育と保育の専門職に求められる資質や知識・技能を身に付けている。</p> <p>この科目は、看護・助産師としての実務経験のある教員が担当しており、「授業の目的と概要」記載どおりの実践的教育を行います。</p>		
授業計画	授業内容	授業外学修など	
第1回	社会背景から考える乳児保育の必要性	課題レポート 「理想のライフスタイル」について	
第2回	乳児保育の成立について（歴史と現状）	グループワーク 「認可外保育所」についてグループ内の意見を基にレポート	
第3回	乳児院について	個人課題レポート 「乳児院の現状」を踏まえた乳児保育の必要性について	
第4回	保育所保育指針について	個人課題レポート 「保育士の資質向上」のために必要なことについて	
第5回	保育所保育指針における乳児保育のポイント（発達過程と保育のつながり/保育における配慮事項）	保育所保育指針における乳児保育のポイントの復習	
第6回	乳児保育における複数担任制	グループワーク 「伝統行事」についてグループ内で調べたことを基にレポート	
第7回	保育所で過ごす1日の流れ（年齢別デイリープログラム）	個人課題レポート 「コラム05」を読んで考えたこと	
第8回	保護者との連携	グループワーク 「さまざまな文化の違い」についてグループ内で調べたこと	
第9回	保育環境の衛生管理	個人グループ課題 「コラム07」を読んでグループ内で議論報告	
第10回	かみつき・ひっかきへの対応	グループワーク 「乳児保育の保育士に必要な資質」についてグループ内で議論	
第11回	安全管理（SIDS/乳幼児揺さぶられ症候群/薬）	SIDS/乳幼児揺さぶられ症候群とはどんな症状なのか復習する	
第12回	保育園と幼稚園の違い	個人課題レポート 保育園と幼稚園の違いについて	
第13回	ふれあいあそび（人形を使って）	乳児にふさわしいと思う絵本を選び、読んでくる	
第14回	乳児にふさわしい絵本	乳児への絵本読みで大切と思うことをまとめる	
第15回	医療保育士の現状（ゲストティーチャーの話）	個人課題レポート 医療現場での保育士の役割などをまとめる	
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など		
定期試験	なし		
レポート	個人課題レポート提出 5回 35%		
小テスト等	なし		
成果発表	グループ課題レポート提出 5回 35%		
受講態度他	30%		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	受講態度が評価の対象になっています。事情がある場合はお知らせください。		
教科書	編著者 志村聡子『はじめて学ぶ 乳児保育』同文書院		
指定図書	なし		
参考図書	なし		
オフィスアワー	月曜日4限	メールアドレス	

授業科目	子どもの保健演習【演習】		開講時期	後期
担当教員	原田 博子・森 里佳		単位	1
授業の目的と概要	乳幼児に対する養護・看護、救急処置等の技術を習得する。子どもの疾病とその予防および適切な対応、救急時の対応や事故防止、安全管理について理解する。新生児モデル人形や2歳児モデル人形などを使用し、テーマ別に技術の手順とそれに伴う配慮を理解する。現代における地域保健活動を理解する。			
到達目標	①乳幼児の養護・看護の実際を適切に行うことができる。 ②子どもの疾病についての予防および適切な対応について具体的に説明できる。 ③子どもに対する救急処置および救急蘇生法について適切に行うことができる。 ④現代社会における地域の保健活動について考察することができる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(3) -②-2 幼児教育と保育の専門職に求められる資質や知識・技能を身に付けている。 担当教員の中には、看護・助産師としての実務経験を有する者がおり、「授業の目的と概要」記載どおりの実践的教育を行います。			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
森・原田 共通	授業概要、授業進行、グループ分けなどオリエンテーション	森担当：教科書P.42～45を読む 原田担当：教科書P.2～7を読む		
森担当 第1回	子どもの健康状態の把握 ー生理機能の発達ー	振り返りレポート（体温・脈拍・呼吸数測定時の注意点と配慮について）		
森担当 第2回	子どもの保育施設環境 ー屋内外の衛生管理、健康管理ー	振り返りレポート（衛生管理の注意点について）		
森担当 第3回	子どもの応急処置 ー傷害時の対応ー	振り返りレポート（応急処置を行うにあたっての注意点について）		
森担当 第4回	慢性疾患をもつ子どもの保育 ーアレルギー性疾患ー	振り返りレポート（食物アレルギーを持つ子どもへの注意点について）		
森担当 第5回	子どもの応急処置 ー心肺蘇生法の習得ー	振り返りレポート（心肺蘇生法を行うにあたっての注意点について）		
森担当 第6回	子どもによく起こる事故	振り返りレポート（子どもによく起こる事故の特徴とその対処法について）		
森担当 第7回	子どもがよくかかる病気	振り返りレポート（教科書P103 課題6）		
原田担当 第1回	身体発育の測定 発育評価の仕方	振り返りレポート（教科書P.22 課題5と課題6の1）を解いてくる		
原田担当 第2回	赤ちゃんの抱き方（モデル人形を使った実技）	振り返りレポート（赤ちゃんを抱くときの配慮について）		
原田担当 第3回	着替え	振り返りレポート（調乳の注意点について）		
原田担当 第4回	授乳	振り返りレポート（授乳の注意点、配慮について）		
原田担当 第5回	体調不良時の対応（救急車の呼び方）	振り返りレポート（救急車を呼ぶときの注意点について）		
原田担当 第6回	おむつ替え（モデル人形を使った実技）	振り返りレポート（おむつ替えの注意点、配慮について）		
原田担当 第7回	沐浴（モデル人形を使った実技）	振り返りレポート（沐浴時の注意点、配慮について）		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	原田：各回振り返りレポート（5×7） 森：各回振り返りレポート（5×7）			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	森：15％（授業中の態度）原田：15％（授業中の態度・チェックリスト記載内容）			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	受講態度（授業中の態度）はグループ活動における参加態度も含んでいます。			
教科書	小林美由紀執筆「これならわかる！子どもの保健演習ノート 改訂第3版」 診断と治療社			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスアワー	原田：月曜日4限 森：授業終了前後	メールアドレス		

授業科目	発達と教育【講義】		開講時期	後期
担当教員	酒井(均)・石原(努)		単位	2
授業の目的と概要	<p>本講義は、幼児・児童・生徒の各発達段階の特徴、諸側面の発達過程とその特徴を学び、近年の子どもたちに特徴的にみられる発達の様相や問題について考察することにより、子どもの心身の発達についての理解を深めることを目的とする。さらに特別支援教育において対象とされる発達障害の概要とその支援方法や支援体制についても学習することを目的とする</p> <p>近年の子どもたちは発達上の問題を多く抱えている。本講義では、子どもの発達についての理解を深める中で、教育実践への活用を目指した学習をすすめていく。さらに、発達障害に対する正しい知識と支援の方法をあわせて身につけていってほしい。学生には、目ごろから教育や子どもに関係する事柄に関心を持ち、情報の収集に努めてほしい。</p>			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・乳幼児期から青年期までの発達段階の特徴を述べることができる。 ・ソーシャルスキル、ことばの発達過程について説明することができる。 ・発達上の問題について考察し、必要な教育活動・支援について自分の見解を述べるができる。 ・発達障害について説明でき、その支援方法について述べるができる。 			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>(1) -④社会の一員としての意識をもってその発展に関わることができる。「市民としての社会的責任・勤労観」 (2) -⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。「幅広い視野」 (3) -②-1 初等教育の専門職に求められる倫理観や人間観を身につけている。</p> <p>この科目は心理相談・特別支援学校教員、小学校教員としての実務経験のある者が担当しており、「授業の目的と概要」記載どおりの実践的教育を行います。</p>			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	オリエンテーション	ショートレポート		
第2回	発達について	ショートレポート		
第3回	発達段階の特徴 乳児期～幼児期	ショートレポート		
第4回	発達段階の特徴 児童期～青年期	ショートレポート		
第5回	ソーシャルスキルの発達(1) 乳幼児期～児童期	ショートレポート		
第6回	ソーシャルスキルの発達(2) 思春期～成人期	ショートレポート		
第7回	ことばの発達(1) 乳児期～幼児期の発達	ショートレポート		
第8回	ことばの発達(2) 児童期～青年期の発達	ショートレポート		
第9回	発達・教育支援の方法 アセスメント	ショートレポート		
第10回	発達・教育支援の方法 ABA	ショートレポート		
第11回	発達・教育支援の方法 BAA ソーシャルスキルトレーニング	ショートレポート		
第12回	発達・教育支援の方法 サバイバルスキルトレーニング	ショートレポート		
第13回	発達・教育支援の方法 感覚統合	ショートレポート		
第14回	発達障がいについて	ショートレポート		
第15回	家族支援について	最終レポート		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	毎回のショートレポート30%、最終レポート70%			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	なし			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	受講態度については、幼稚園教諭、保育士、小学校教諭等にふさわしい態度を求めます。遅刻、私語、居眠り、携帯電話の使用は厳禁です。			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	「よくわかる発達心理学」「よくわかる発達障害」 ミネルヴァ書房			
オフィスアワー	担当教員の他科目のシラバスを参照してください。	メールアドレス	各教員の他科目のシラバスを参照	

授業科目	知的障がい者の心理・生理・病理【講義】	開講時期	後期
担当教員	洪田 登美子	単位	2
授業の目的と概要	この授業は、生理・病理といった器質的要因をふまえながら、知的障がい児・者の発達や行動特徴、ライフステージに応じた支援について理解することを目的とします。さらに、知的障がいとの併存が多い自閉症スペクトラム障害、肢体不自由、感覚障害について理解を深めます。最後に、環境との関わりの中で生じる問題として二次障がいについて学び、その予防としての環境調整や支援について考察できることを目的とします。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 発達段階ごとに知的障がい者の心理・行動特性について述べるができる。 2. 自閉症スペクトラム障がいを併存している知的障がい者の行動特性とその支援について述べるができる。 3. 一次性併存障がいと二次障がいについて簡潔な文章で説明することができる。 4. ライフステージに応じた支援について述べるができる。 		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>(3) -②-2 人間の心の発達段階における諸課題について説明することができる。</p> <p>この科目は心理相談・特別支援教育の実務経験のある教員が担当しており、「授業の目的と概要」記載どおりの実践的教育を行います。</p>		
授業計画	授業内容	授業外学修など	
第1回 授業の概要	・ DVD視聴	復習、中間レポートのための図書を探す	
第2回 知的障がいとは		中間レポートのための図書を探す	
第3回 乳幼児期の発達過程とアセスメント		中間レポートのための図書を読む	
第4回 幼児期の療育、児童期の発達過程と支援		中間レポートのための図書を読む	
第5回 ダウン症候群の発達的特徴		中間レポートのための図書を読む	
第6回 ウィリアムズ症候群の発達的特徴		中間レポートのための図書を読む	
第7回 自閉スペクトラム症(1) : 自閉スペクトラム症とは、乳幼児期の行動特徴		中間レポートを作成する	
第8回 自閉スペクトラム症(2) : 学童期の行動特徴		中間レポートを作成する	
第9回 自閉スペクトラム症(3) : こだわり行動とパニックへについて		中間レポートを作成する	
第10回 : 就労に向けて、職場でみられる問題、DVD視聴		障がい者の就労の現状について情報収集する	
第11回 青年以降の発達過程と支援、強度行動障害		映画や小説に登場する障がい児・者がどのように描かれているかを調べる	
第12回 肢体不自由者の心理・生理・病理、DVD視聴		映画や小説に登場する障がい児・者がどのように描かれているかを調べる	
第13回 聴覚障がい者と視覚障がい者の心理・生理・病理		これまでの授業内容を振り返り、復習する	
第14回 1次性併存障がいと 二次性併存障がい		これまでの授業内容を振り返り、復習する	
第15回 親ときょうだいこととの障がい		知的障がい者の家族支援について調べる	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など		
定期試験	60% 定期試験		
レポート	30% 中間レポート : 障がい者または、障がい者の家族によって書かれた本を読み、レポートを作成する。 A4用紙2枚 図書リストは授業中に配布、筑女ネットにも掲示する。		
小テスト等	なし		
成果発表	なし		
受講態度他	10%		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	中間レポートは、障がい当事者の視点から障がいを理解するために課しています。図書リストの本はどれも読みやすい本なので、早めに選り読むことを勧めます。授業内容の理解が深くなると思います。		
教科書	毎回資料を配布する。		
指定図書	なし		
参考図書	梅谷忠男・生川善雄・堅田明義(編著) 『特別支援児の心理学』 北大路書房 図書リストは授業で配布し、筑女ネットにも掲載する		
オフィスアワー	水曜日 4 講目	メールアドレス	

授業科目	社会的養護内容【演習】		開講時期	前期
担当教員	上原 真幸		単位	2
授業の目的と概要	<p>本授業は、社会的養護を必要とする子どもや、その家庭への支援について、様々な事例を読み解きながら、対象児童に関する記録・自立支援計画の作成と検討、家庭への支援内容等を具体的に検討する力を養うことを目的とする。支援の実践記録を分析し、支援を行う上での視点や生じている問題の捉え方を学ぶ。学びを踏まえ、実際にどのような支援が必要か、社会的養護を必要とする子どもとその家庭への支援を行う専門職としての倫理に基づき、考察する力を養う。</p>			
到達目標	<p>①社会的養護の理念、子どもの権利保障、保育士の倫理について説明することができる。 ②多様な社会問題から、どのような社会的養護を必要とする状況が生じているか、考察することができる。 ③現在行われている支援の実践記録から、生じている問題の捉え方や支援の効果について分析することができる。 ④自立支援計画を立て、その内容をグループで討議し、計画の視点の共通点や相違点に気づくことができる。 ⑤発生している問題について、連携すべき地域の機関を挙げ、問題解決方法や問題発生予防の方法を具体的に検討することができる。</p>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>(1) -①自己の良心と社会の規範・ルールに従って行動できる。「倫理観・人間観」 (1) -③他者と協働して課題に取り組むことができる。「チームワーク力」 (2) -④社会の多様な問題を発見し、解決することができる。「問題解決力」 (3) -②-2 幼児教育と保育の専門職に求められる資質や知識・技能を身に付けている。</p> <p>この科目は保育士としての実務経験のある教員が担当しており、「授業の目的と概要」記載どおりの実践的教育を行います。</p>			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	社会的養護に関する基礎知識の復習	児童家庭福祉論等の内容を、ワークシートを用いて復習する。		
第2回	社会的養護の理念と基本原則 ー社会的養護の機能と役割理解ー	テキストp.26-40を事前に読み、レジュメを用いて事後学習をする。		
第3回	社会状況と社会的養護問題の発生 ー子どもを取り巻く環境から社会的養護問題についてー	社会的養護に関係する事件や話題を3つ探し、内容をまとめておく。		
第4回	子どもの権利保障としての社会的養護 ー児童福祉法及び児童権利条約の理解ー	児童福祉法及び児童権利条約を熟読し、レジュメを用いて事後学習する。		
第5回	社会的養護のプロセス ー一時保護から措置入所、援助、退所までの過程理解ー	テキストp.56-69を事前に読み、レジュメを用いて事後学習する。		
第6回	社会的養護の各プロセスと児童権利条約の関係性 ー子どもの権利保障方法の具体的検討ー	児童権利条約を熟読し、社会的養護に関係する内容をまとめておく。		
第7回	社会的養護問題の発生予防 ー地域における機関連携ネットワークの活用ー	事前に配布事例を読んでおく。事後に感想を書き、提出する。		
第8回	社会的養護を必要とする子どもの自立支援 ー日常援助及び自立援助ホームの理解ー	テキストp.151-160を事前に読み、レジュメを用いて事後学習する。		
第9回	自立支援計画の作成 ー乳児院の事例を基に各自で計画を立てるー	テキストp.170-177の事例を事前に読み、事後に自立支援計画を完成させる。		
第10回	自立支援計画の検討 ーグループ内での自立支援計画の討議ー	討議を踏まえ、意見の共通点や相違点をワークシートにまとめる。		
第11回	児童養護施設における援助実践記録の分析① ー実践記録の個人分析ー	事前に実践記録を読んでおく。分析の結果をワークシートにまとめる。		
第12回	児童養護施設における援助実践記録の分析② ー実践記録分析のグループ討議ー	グループ討議で出された意見を踏まえ、援助の実際と効果についてまとめる。		
第13回	障害児入所施設における援助実践記録の分析① ー実践記録の個人分析ー	事前に実践記録を読んでおく。分析の結果をワークシートにまとめる。		
第14回	障害児入所施設における援助実践記録の分析② ー実践記録のグループ討議ー	グループ討議で出された意見を踏まえ、援助の実際と効果についてまとめる。		
第15回	まとめ ー社会的養護に係る保育士の専門性と倫理ー	配布レジュメやノートをまとめておく。		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	70%（講義内容に全般に関する試験を行う）			
レポート	10%（講義内感想レポート等）			
小テスト等	ー			
成果発表	ー			
受講態度他	20%（講義内の発言、取り組みの姿勢等）			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	講義中のスマートフォン等の電子機器類の使用は、厳しく禁止する。 日常的に、社会的養護に関するニュースや新聞記事に関心を持ち、参加すること。 資料等は印刷物を配布する。A4サイズノートを1冊準備すること。 授業内の情報や、課題についての連絡は、筑女ネットを活用する。			
教科書	辰巳隆・岡本真幸編『三訂 保育士をめざす人の社会的養護内容』みらい 保育福祉小六法編集委員会編『保育福祉小六法』みらい			
指定図書	ー			
参考図書	随時紹介する			
オフィスアワー	月曜5限	メールアドレス		

授業科目	家庭支援論【講義】	開講時期	後期
担当教員	上原 真幸	単位	2
授業の目的と概要	保育士に求められる役割の一つに、子育て家庭に対する支援がある。本授業では、家族や各家庭が抱える悩み、それらが子どもに与える影響について理解すると共に、保育所保育士もしくはその他児童福祉施設保育士が家庭に対して行うべき支援、支援の視点、方法について理解することを目的としている。理論を踏まえた上で、実際の事例をグループで検討・発表し、さらにその内容を全体で討議する。どのような支援機関と連携しながら、どのように家庭を支援することができるのか、考察する力を養う。		
到達目標	①家庭を取り巻く様々な困難状況と、その背後にある家庭の生活課題に着目することができる。 ②家庭支援に関する社会資源の種類を理解し、それぞれの支援内容について説明することができる。 ③保育所で行う日常的な家庭との関わりや支援について、事例から読み取り、支援の効果と課題を分析することができる。 ④要保護児童とその家庭との関わりや支援について、事例から読み取り、支援の効果と課題を分析することができる。 ⑤支援事例をグループで討議し、互いの意見を整理・考察・発表することができる。 ⑥家庭支援を行うにあたっての保育者としての職業倫理について述べるることができる。		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(2) -①多様な価値観を尊重し、他者につながるための意思疎通ができる。「コミュニケーション・スキル」 (2) -④社会の多様な問題を発見し、解決することができる。「問題解決力」 (3) -②-1 幼児教育と保育の専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。 この科目は保育士としての実務経験のある教員が担当しており、「授業の目的と概要」記載どおりの実践的教育を行います。		
授業計画	授業内容	授業外学修など	
第1回	現代を取り巻く家庭の状況 一少子化や子育て世帯が抱える困難の理解一	子どもや家庭に関する社会問題や事件等を3つ調べておく。	
第2回	家庭・家族について 一家庭・家族の定義やその機能についての理解一	テキストp.13-30を事前に読み、レジюмеを用いて事後学習する。	
第3回	家庭支援における保育士の役割 一法令が定める家庭支援と保育士倫理について一	保育所保育指針、全国保育士会倫理綱領のワークシートに取り組む。	
第4回	子育てに関する国・地域対策 一エンゼルプランから子ども・子育て支援制度の理解一	テキストp.31-46を事前に読み、レジюмеを用いて事後学習する。	
第5回	多様な子育て支援施設の理解 一子ども・子育て支援制度に基づく施設について一	支援制度に関する資料を熟読し、レジюмеを用いて事後学習する。	
第6回	子育てに関する多様な社会資源の理解 一子育て支援事業の種類・内容について一	テキストp.48-65を事前に読み、ワークシートを用いて事後学習する。	
第7回	要保護児童とその家庭への支援 一家庭支援専門相談員の役割と支援内容について一	テキストp.80-94を事前に読み、レジюмеを用いて事後学習する。	
第8回	里親など家庭養護に携わる家庭への支援 一里親支援専門相談員等の役割について一	里親制度の資料を事前に熟読し、レジюмеを用いて事後学習する。	
第9回	保育所の特性を生かした家庭支援 一保育所が実施する家庭支援の特徴と意義について一	テキストp.112-135を事前に読み、レジюмеを用いて事後学習する。	
第10回	虐待状況にある家庭支援事例の検討① 一個人検討一	事例を事前に読み、事後に検討ワークシートを完成させておく。	
第11回	虐待状況にある家庭支援事例の検討② 一グループディスカッション一	グループ内で事例検討の結果をまとめておく。	
第12回	虐待状況にある家庭支援事例の検討③ 一グループ発表・全体討議一	各グループで発表内容を検討し、討議の感想を記入する。	
第13回	家庭復帰を目的とした児童や家庭への支援事例の検討① 一グループディスカッション一	事例検討ワークシートを各グループで完成させておく	
第14回	家庭復帰を目的とした児童や家庭への支援事例の検討② 一グループ発表・全体討議一	各グループで発表内容を検討し、討議の感想を記入する。	
第15回	まとめ 一保育士に求められる家庭支援の方法と課題一	テキスト、ノート、レジюме等を振り返り、まとめておく	
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など		
定期試験	70%（講義内容全般に関する試験を実施する）		
レポート	10%（講義内感想レポート等）		
小テスト等	-		
成果発表	-		
受講態度他	20%（講義内の発言、取り組みの姿勢等）		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	講義中のスマートフォン等の電子機器類の使用は、厳しく禁止する。 子育て支援等の社会問題に関するニュース、新聞記事等を積極的に読んだ上で講義に参加すること。 資料等は印刷物を配布する。A4サイズのノートを1冊準備すること。 授業に関する情報や、課題についての連絡は、筑女ネットを活用する。		
教科書	山本伸晴・白幡久美子『保育士をめざす人の家庭支援』みらい 保育福祉小六法編集委員会編『保育福祉小六法』みらい		
指定図書	-		
参考図書	随時紹介する		
オフィスアワー	月曜5限	メールアドレス	

授業科目	保育・教職実践演習(幼稚園)【演習】		開講時期	後期
担当教員	岡山(万)・上原(真)・原田(博)・山本(尚)		単位	2
授業の目的と概要	これまでの授業や実習を通して学んできた、保育者となるために必要な能力を再認識し、専門職として必要な実践力を向上させることを目的とする。 幼児教育・保育に関し、子ども理解、要領・指針が示す5領域等、子育て支援、安全管理、保幼小連携等を総合的に理解する。理論的な内容理解を踏まえた上で、実際に幼児教育・保育の指導・保育計画を立案し、実践する。実践をグループディスカッションやプレゼンテーションを通じ振り返り、自身の幼児教育・保育を考察する力を習得する。幼稚園教諭免許・保育士資格取得課程における、4年間の学びの軌跡の集大成として位置づける科目である。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 幼稚園教育要領・保育所保育指針等が示す5領域等の内容を、自分の言葉で説明することができる。 2. 遊びの展開やねらいを、5領域等を踏まえて立案し、検討することができる。 3. グループディスカッションを通し、グループごとに計画した遊びを子ども達に対し実際に展開することができる。 4. グループで取り組んだ幼児教育・保育実践を省察し、グループ内で意見を述べるすることができる。 5. 幼児教育・保育実践を省察・課題とともに、プレゼンテーションし、多様な意見を踏まえ、自身の課題を導くことができる。 			
この授業が目的としてDPや関連する科目など	<ol style="list-style-type: none"> (2) ①多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。「コミュニケーション・スキル」 (2) ④社会の多様な問題を発見し、解決することができる。「問題解決力」 (3) ⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。「幅広い視野」 (3) ①自己にふさわしいキャリアを構想できる。「キャリアを構想する力」 (3) ②-2 幼児教育と保育の専門職に求められる資質や知識・技能を身に付けている。 (4) ①これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。「課題探究力」 <p>担当教員の中には保育士としての実務経験を有する者がおり、「授業の目的と概要」記載どおりの実践的教育を行います。</p>			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	要領・指針に示された5領域の内容理解 一 文言の理解、各領域の内容整理一	要領・指針を熟読し、各領域の内容を整理しておく。		
第2回	3歳未満児の保育のねらい・内容の理解 一 保育所保育指針等の内容整理一	保育所保育指針第2章を熟読し、内容を整理しておく。		
第3回	幼児教育における「3つの柱」と「10の姿」の理解 一 実践記録に基づいた内容考察と理解一	実践記録を熟読し、子どもの姿の分析をレジュメにまとめる。		
第4回	幼児教育・保育の計画① 一 グループディスカッションを通じた指導・保育計画の立案一	各グループで計画をまとめ、大まかな内容を計画書に記載しておく。		
第5回	幼児教育・保育の計画② 一 各グループの指導・保育計画の具体化一	計画した内容を具体的に考察し、実践する上での留意点等をまとめておく。		
第6回	幼児教育・保育の計画③ 一 各グループの幼児教育・保育実践に向けた教材等の準備一	必要備品や教材等をまとめ、実践に向けた準備を進めておく。		
第7回	幼児教育・保育の実践的考察① 一 幼児教育・保育展開の実際一	実践の状況を振り返りまとめておく。		
第8回	幼児教育・保育の実践的考察② 一 幼児教育・保育展開とその記録一	実践の結果を記録し、反省等をまとめておく。		
第9回	グループディスカッションによる幼児教育・保育実践の省察①	幼児教育・保育の活動展開を振り返り、意見をまとめておく。		
第10回	グループディスカッションによる幼児教育・保育実践の省察②	立案から実践までの課程を踏まえた省察をし、まとめておく。		
第11回	各グループの幼児教育・保育実践過程、省察についてのプレゼンテーション準備	実践課程の資料を整え、プレゼンテーション用のスライドを作成しておく。		
第12回	各グループによる保育実践のプレゼンテーション及び議論①	発表グループに対する意見、感想をまとめ、レポートする。		
第13回	各グループにより保育実践のプレゼンテーション及び議論②	発表グループに対する意見、感想をまとめ、レポートする。		
第14回	保育者になるにあたっての自身の課題理解 一 KJ法を用いたグループワーク一	計画・実践・議論を踏まえ、自身の課題をリストアップしておく。		
第15回	保育者として望まれる資質や能力、就労に向けた留意点について	学びを振り返り、保育者になるに向けての課題をレポートする。		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	45% 保育者としての自己課題と課題解決に向けた取り組みについて、レポート課題を出す。			
小テスト等	なし			
成果発表	20% 指導・保育計画の立案と実践への取り組み及びその内容 20% 実践の振り返り、プレゼンテーション、議論への取り組み及びその内容			
受講態度他	15% 授業への取り組みの姿勢、議論における質疑等			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	実際に子ども達に対し遊びを展開する。各自が責任感と免許・資格取得の自覚をもって、グループ活動や個人の課題に取り組むこと。 授業日程や必要書類等、筑女ネットを活用し、連絡をする。			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	授業の中で適宜紹介する			
オフィスアワー	各教員の他科目のシラバスを参照	メールアドレス	各教員の他科目のシラバスを参照	

授業科目	相談援助【講義】		開講時期	後期
担当教員	上原 真幸		単位	2
授業の目的と概要	本授業では、相談援助（ソーシャルワーク）に関する理論を理解すると共に、基本的な相談面接の技法、連絡帳や日常的な保護者への援助等、実践的な相談援助技術を習得することを目的とする。 子どもや家庭を取り巻く様々な困難、問題を解決するためには、まず、困難な状況にある相手の状況や思いを知り、正しい情報を多く得ることが重要である。そのために不可欠となる保育場面で求められる相談援助の方法・技術について理解する。加えて、個々の価値観の違い、伝え方の課題、聞き取り方の課題等、自己覚知を深め、相談援助実践力につなげる。			
到達目標	①相談援助の意義や機能、具体的展開方法を知り、各過程における援助者の留意点について述べることができる。 ②相談面接を行う上での基本的な方法を知り、それらを守りながら面接を行うことができる。 ③子どもと家庭の状況からジェノグラム・エコマップを作成し、援助に必要な情報を整理・選択することができる。 ④相談援助における記録の意味を知り、記録と援助の関連性について述べるができる。 ⑤自己覚知を通し、互いの価値観の違い、相談援助を行う上での自身の課題について気づくことができる。 ⑥保育におけるソーシャルワーク機能について理解し、必要性について説明することができる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(2) -①多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。「コミュニケーション・スキル」 (2) -②多様な情報の中から必要なものを選択し、活用することができる。「情報リテラシー」 (3) -②-2 幼児教育と保育の専門職に求められる資質や知識・技能を身に付けている。 この科目は保育士としての実務経験のある教員が担当しており、「授業の目的と概要」記載どおりの実践的教育を行います。			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回 自己覚知①	ーワークシートを用いた“今の私”の理解ー	テキストp.58-65を事前に読み、事後にワークの感想を提出ー		
第2回 保育の中の相談援助	ー連絡帳を通した相談と援助の実際・グループ討議ー	テキストp.16-19を事前に読み、グループ討議の感想を事後に提出する。		
第3回 相談援助と生活課題	ー相談援助の特徴と生活課題の発理解ー	テキストp.106-113を事前に読み、レジユメを用いて事後学習する。		
第4回 相談援助の視点と技術	ー相談援助の専門性とバイスティックの7原則についてー	テキストp.30-43を事前に読み、レジユメを用いて事後学習する。		
第5回 家庭に関わる相談援助の実際	ー子育て不安事例に関するグループディスカッションー	事例を事前に読み、グループ討議からの学びを事後に提出する。		
第6回 記録の作成と記録からの読み取り	ー基本的な記録の書き方理解と情報収集の技術ー	テキストp.93-105を事前に読み、レジユメを用いて事後学習する。		
第7回 ジェノグラムとエコマップの作成・分析	ー事例からのマップの作成と状況の分析ー	事例を事前に読み、レジユメを用いて事後学習する。		
第8回 相談面接技法とコミュニケーション・スキル	ー理論の理解と実践技術ー	テキストp.79-92を事前に読み、事後にワークシートを完成させる。		
第9回 自己覚知②	ー価値観を知るグループワークー	テキストp.65-68を事前に読み、事後にグループワークの感想を提出する。		
第10回 傾聴の実際	ー傾聴の体験と留意事項についてー	テキストp69-74を事前に読み、事後に傾聴体験の感想を提出する。		
第11回 相談面接の実際	ー相談面接から家族問題を把握するー	仮想事例を事前に作成し、模擬面接を通した自身の課題をまとめる。		
第12回 情報収集・検討のグループワーク	ー複数情報の収集と必要情報の精査ー	テキストp.114-132を事前に読み、事後にグループワークの感想を提出する。		
第13回 伝える技術の自己覚知	ー言葉と文字と図を用いた伝達についてー	テキストp.23-28を事前に読み、レジユメを用いて事後学習する。		
第14回 クラス便りの作成とグループ討議	ー文字による伝達方法と留意点ー	指定した条件をもとにクラス便りを作成する。討議の感想を事後に提出する。		
第15回 保育ソーシャルワークについて	ー保育ソーシャルワークの理解と機能ー	テキスト、ノート等をまとめておく		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	60%（講義内容全般に関する試験を実施する）			
レポート	10%（講義内感想レポート等）			
小テスト等	ー			
成果発表	ー			
受講態度他	30%（講義内の発言、取り組みの姿勢等）			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	講義中のスマートフォン等の電子機器類の使用は、厳しく禁止する。 日常的に子どもと家庭に関するニュースや新聞記事に目を通しておくこと。 資料等は印刷物を配布する。A4サイズのノートを1冊準備すること。 授業に関する情報や、課題について等の連絡は、筑女ネットを活用する。			
教科書	佐藤信隆・中西遍彦『演習・保育と相談援助』みらい			
指定図書	ー			
参考図書	随時紹介する			
オフィスアワー	月曜5限	メールアドレス		

授業科目	学校心理学【講義】	開講時期	後期
担当教員	石原 努・今里 順一	単位	2
授業の目的と概要	心理教育的援助サービスに関する基礎的な知識を身につけ、その知識を活用して、学校現場における心理学的な援助の技法を習得することを目的とする。 講義前半では、主に、心理教育的援助サービスの基礎的な知識や技法について学修する。講義後半では、主に、学校現場で起こりうる具体的な子どもに関連する諸問題について考えながら、グループワークを通してその解決策やその技法について学修する。		
到達目標	・心理教育的援助サービス（アセスメント・カウンセリング・コンサルテーション・コーディネーション）に関する基礎的な理論体系を説明することができる。 ・学校現場で起こりうる諸問題（いじめ、不登校、学級の荒れ、集団形成、発達障害等）について学校心理学の視点から考察し、それらの諸問題に対する援助策を創造していくことができる。		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	心C (3) -②-2 人間の心の発達段階における諸課題について説明することができる。 福C (3) -②-1 福祉専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。 初C (3) -②-1 初等教育の専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。 幼C (3) -②-1 幼児教育と保育の専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。 担当教員の中には小学校教員としての実務経験を有する者があり、「授業の目的と概要」記載どおりの実践的教育を行います。		
授業計画	授業内容	授業外学修など	
1	講義の概要説明とオリエンテーション	学校心理学の概要について簡潔にまとめる。	
2	学校心理学の意義と特色	学校心理学の意義・特色について簡潔にまとめる。	
3	学校心理学における心理教育的援助サービス	心理教育的援助サービスを行う対象とその内容についてまとめる。	
4	学校心理学における援助方法①：アセスメント	アセスメントの種類や方法を分類・整理しまとめる。	
5	学校心理学における援助方法②：カウンセリング	カウンセリングの技法等について整理しまとめる。	
6	学校心理学における援助方法③：カウンセリング、コンサルテーション	カウンセリングとチーム援助の在り方について簡潔にまとめる。	
7	学校心理学における援助方法④：コンサルテーション、コーディネーション	コンサルテーション、コーディネーションについて簡潔にまとめる。	
8	主に学習に関する心理学的援助 グループワークを通して、解決策等について考える。	学習に関する援助の手法について分類整理しまとめる。	
9	主に学級集団に関する心理学的援助 グループワークを通して、解決策等について考える。	集団形成に関する援助の手法についてまとめる。	
10	主に社会性・道徳性に関する心理学的援助 グループワークを通して、解決策等について考える。	社会性・道徳性の発達についてまとめる。	
11	主にキャリア教育に関する心理学的援助 グループワークを通して、解決策等について考える。	キャリア教育に関する援助の手法についてまとめる。	
12	主に健康面に関する心理学的援助 グループワークを通して、解決策等について考える。	健康面に関する援助の手法についてまとめる。	
13	特別支援教育に関する心理学的援助 グループワークを通して、解決策等について考える。	発達障害がある子への支援方法についてまとめる。	
14	学校全体、教師、保護者等を対象とした心理学的援助 グループワークを通して、解決策等について考える。	学校全体、教師や保護者に関する援助の手法についてまとめる。	
15	学校心理学のまとめと今後の展望	学校心理学の役割や心理学的な援助の手法について全体的なまとめを行う。	
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など		
定期試験	なし		
レポート	60％ 多面的に課題を吟味し、その支援策について自分の考えをまとめレポートする。		
小テスト等	なし		
成果発表	20％ 授業内で、話し合った結果等を発表する。		
受講態度他	20％ 課題の討議へ対する取組や、その参加態度等		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	・提出物（レポート）の期限は厳守すること。 ・毎時間の学習した内容を簡潔にまとめること。 ・グループワークには、積極的に参加すること。		
教科書	なし		
指定図書	なし		
参考図書	水野治久編著『よくわかる学校心理学』ミネルヴァ書房 学校心理士資格認定委員会『学校心理学ガイドブック』風間書房		
オフィスアワー	月曜日2限、水曜日2限	メールアドレス	

授業科目	病弱者の心理・生理・病理【講義】		開講時期	前期
担当教員	大霧 香		単位	2
授業の目的と概要	病弱者の心理的な特徴や生理・病理的な特徴を知ることが目的とする。さらに病弱者に対する対応について理解を深める。また、病弱者のハイリスクとしての極低出生体重児（極小未熟児）についても学習する。病弱者の定義を学習した後、それぞれの心理や生理、病理の特徴をつかみ基礎的な対応や病弱者の支援について学習する。			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・病弱者の心理・生理・病理的特徴について説明することができる。 ・病弱者の病気の概要や病気に対する注意点について説明することができる。 ・病弱者に対する基礎的な対応を述べることができる。 			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(3) -②-3 人間が直面する心の諸課題について、改善・解決に有効な援助法について説明することができる。 この科目は心理相談の実務経験のある教員が担当しており、「授業の目的と概要」記載どおりの実践的教育を行います。			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	病弱者とは	授業内容の復習（病弱者の定義）		
第2回	極低出生体重児の心理・生理・病理（1） 極低出生体重児とは	授業内容の復習（極低出生体重児について）		
第3回	極低出生体重児の心理・生理・病理（2） ハイリスク児への支援	ミニレポート①（講義中のDVDについて考えたこと）		
第4回	腎疾患の心理・生理・病理（1） 腎疾患とは	ミニレポート②（慢性疾患について）作成 授業内容の復習		
第5回	腎疾患の心理・生理・病理（2） 腎疾患の子どもが抱えやすい問題とその対応について	ミニレポート②（慢性疾患について）作成 心疾患について調べる		
第6回	心疾患の心理・生理・病理 心疾患とその子どもが抱えやすい問題とその対応について	ミニレポート②（慢性疾患について）作成 糖尿病について調べる		
第7回	小児の糖尿病・肥満の心理・生理・病理	ミニレポート③（講義中のDVDについて考えたこと） 授業内容の復習		
第8回	てんかんの心理・生理・病理（1） てんかんとは	ミニレポート②（慢性疾患について）作成 てんかんについて調べる		
第9回	てんかんの心理・生理・病理（2） 発作に対する対応とてんかんを持つ人への配慮について	ミニレポート②（慢性疾患について）作成 小児がんについて調べる		
第10回	小児がんの心理・生理・病理（白血病を中心に）	ミニレポート④（講義中のDVDを見て考えたこと）		
第11回	アレルギー疾患・喘息の心理・生理・病理（1） ぜんそくを中心に	アレルギーについて調べる		
第12回	アレルギー疾患・喘息の心理・生理・病理（2） 食物アレルギーを中心に	アレルギーについて調べる		
第13回	病弱者の家族への支援（1） 家族の思い	配布プリント（病弱者の家族）通読		
第14回	病弱者の家族への支援（2） 家族への支援	ミニレポート⑤（配布プリント、DVDを見て考えたこと）		
第15回	まとめ	復習、期末レポートへの準備		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	55% 期末レポート 40% ミニレポート（5回）			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	5% 受講態度を考慮します。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	プリントを配布しますので、ファイルを用意して下さい。 事前に授業計画に書かれている疾患について自己学習をして下さい。			
教科書	使用しない			
指定図書	特になし			
参考図書	谷川弘治・駒松仁子、松浦和代・夏路瑞穂編 『病気の子どもの心理社会的支援入門』 ナカニシヤ出版 小野次朗・西牧謙吾・榊原洋一編著 『特別支援教育に生かす病弱児の生理・病理・心理』 ミネルヴァ書房			
オフィスアワー	前期 月曜日4講目・木曜日昼休み 後期 金曜日2講目・木曜日昼休み	メールアドレス		

授業科目	教職入門【講義】	開講時期	後期
担当教員	薄 千里	単 位	2
授業の目的と概要	<p>教職の意義及び教員の役割、教員の職務内容（研修、服務及び身分保障等を含む）に関する知識の修得を通して、教職についての理解を深めること、及び教員の職務の事例や子どもと教育の現状について検討することを通して、自らの教員としての適性や能力、進路について考察する。</p> <p>本講義を通して、教職についての基礎的・基本的な知識を修得していく。ディスカッション等を通して、教員の職務の事例や子どもと教育の現状の検討、目指す教員像に向けて目標設定などを行い、教職についての理解を深め、自らの教員としての適性や能力、進路について考察していく。</p>		
到達目標	<p>1 教職の意義、及び教員の役割について理解し、説明することができる。</p> <p>2 教員の職務内容（研修、服務及び身分保障等）について理解し、説明することができる。</p> <p>3 教員の職務の事例、子どもと教育の現状についてグループ討議等を通して検討し、自らの教員としての適性や能力について考察し記述することができる。</p> <p>4 目指す教員像を具体的に描き、実現のために行動目標を設定し達成していくことができる。</p>		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>(3) -②-1 初等教育の専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。</p> <p>この科目は小学校教員としての実務経験のある教員が担当しており、「授業の目的と概要」記載どおりの実践的教育を行います。</p>		
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など	
第1回	学校教育について（教育基本法、学校教育法、学校教育施行規則、小学校学習指導要領、幼稚園教育要領 等）	法規を基に教育の目的等について確認し、ノートにまとめる。	
第2回	教員観の変遷と求められる教員像について、「心に残っている先生」についてディスカッション	求められる教員像、自らの教員観を確認する。	
第3回	教育の動向と教育施策について	教育の動向と教育施策について確認する。	
第4回	教職の意義と教員の役割について、事例を基にディスカッション	教職の意義、教員の役割についてノートにまとめる。	
第5回	子どもと教育の現状、チームとして組織的に対応する重要性	子どもと教育の現状について振り返り、自らの考えをもつ。	
第6回	教員の職務内容 1 研修、服務及び身分保障等	教員の職務内容（研修等）についてノートにまとめる。	
第7回	教員の職務内容 2 教育課程の編成と指導計画の作成	教育課程と指導計画についてノートにまとめる。	
第8回	教員の職務内容 3 学習指導・保育（学級経営と指導力、授業・保育の成立）	学級経営、指導力について確認する。	
第9回	教員の職務内容 4 学習指導・保育（魅力ある授業・保育）、事例を基にディスカッション	自分が受けてきた学習指導・保育について想起し考察する。	
第10回	教員の職務内容 5 生徒指導・生活指導（意義と課題）	生徒指導の意義と課題について確認しノートにまとめる。	
第11回	教員の職務内容 6 生徒指導・生活指導の実際、事例を基にディスカッション	自分が受けてきた生徒指導・生活指導について想起し考察する。	
第12回	学校事故と危機管理	学校事故と危機管理について確認し、ノートにまとめる。	
第13回	学校・家庭・地域社会の連携と信頼性の確立	学校・家庭・地域社会の連携について確認する。	
第14回	学校教育目標の具現化と学校組織、学校評価	学校教育目標の具現化、学校組織、学校評価について確認する。	
第15回	目指す教員像と目標設定（ディスカッション）	行動目標の達成に向けて努力を継続する。	
成績評価	割 合（％）、種類・評価基準など		
定期試験	50％		
レポート	30％		
小テスト等	なし		
成果発表	なし		
受講態度他	20％（グループ・全体討議の参加状況を含む。）		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	将来教職に就くことを前提に、それにふさわしい態度で受講すること。 配布資料をファイルしていくこと。		
教科書	文部科学省『小学校学習指導要領』（平成29年3月告示） 文部科学省『幼稚園教育要領解説』（平成30年3月）		
指定図書	なし		
参考図書	文部科学省『小学校学習指導要領解説 総則編』（平成29年6月） 文部科学省『幼稚園教育要領』（平成29年3月）		
オフィスアワー	木曜日 2 講時	メールアドレス	

授業科目	教育相談【講義】	開講時期	後期
担当教員	板井 修一	単位	2
授業の目的と概要	この科目は、初等教職課程授業科目の一つで、教職に関する科目のうち生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目の「教育相談(カウンセリングに関する基礎的知識を含む)」の理論及び方法について学ぶものである。 教育現場で子どもたちが現す問題行動への対応は、教師にとっては避けて通ることのできない重要な問題である。的確な「見立て」と適切な対応がとれるかによって、教師の力量が問われることになる。教師には、幼児や児童のこころを理解するための理論や方法を、しっかりと身につけたうえで、子どもたちと真摯に向き合い、関わり合う姿勢が求められている。 この「教育相談」の授業をとおして、問題を抱え課題に直面する子どもたちへの指導・援助にとどまらず、問題発生の予防ならびに、子どもたちの人間的成長を促す積極的・開発的な援助や支援のあり方についての理解を深めていく。		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・教育現場における教育相談の意義について説明することができるようになる。 ・教育相談に役立つカウンセリングの基本的態度や技法を身につける。 ・教育相談の対象となる登園拒否や不登校、発達障害等の問題について、説明できるようになる。 ・幼児理解の理論及び方法の意義について説明できるようになる。 		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	初C (3) -②-1 初等教育の専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。 初C (3) -②-2 初等教育の専門職に求められる資質や知識・技能を身に付けている。 初C (3) -②-3 初等教育を取り巻く社会・地域・家庭の状況について概要を説明することができる。 幼C (3) -②-1 幼児教育と保育の専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。 幼C (3) -②-2 幼児教育と保育の専門職に求められる資質や知識・技能を身に付けている。 幼C (3) -②-3 子どもを取り巻く社会・地域・家庭の状況について 関連する科目：幼児理解、カウンセリング概論、		
授業計画	授業内容	授業外学修など	
第1回	教育相談とは 子どもの現状、教育相談の意義、事例の提示とそれに基づくディスカッション	教育現場が抱える子どもの問題について、新聞や雑誌を調べリストを作る	
第2回	発達課題と教育相談 子どもの発達課題と子どもの問題、教育相談の果たす役割	子供の発達課題とつまずきについて調べる	
第3回	教育相談の三要素 学業相談、進路相談、適応相談	教師との自分自身の相談体験について思い出しまとめる	
第4回	スクールカウンセラー(SC)制度 制度と今後の課題、制度化のプロセス、心の相談員	自分の卒業した中学校でSCがどのような活動をしていたかまとめる	
第5回	精神分析(1) 無意識の心理学、心的決定論、	自分の見た夢や失脚行為について思い出し記録する	
第6回	精神分析(2) 自我の働き、防衛機制	自分がよくとる防衛機制について、エピソードの形でまとめる	
第7回	行動理論 子ども問題に対する理解の仕方(未学習、誤学習、過学習性の問題)、賞と罰、スモールステップ	日常生活に見られる行為や出来事について、学習理論で説明してみる	
第8回	カウンセリング(1) ロジャーズの非指示的カウンセリング、クライエント中心療法	自分が受けたカウンセリングの体験エピソードをまとめる	
第9回	カウンセリング(2) 受容・共感・自己一致 小グループでのカウンセリングのロールプレイ(実習)	自分が他者に対して行ったカウンセリング的行為についてまとめる	
第10回	現場で出会う心理的諸問題(1) 不登校を中心に	適応指導教室やフリースペース等についての情報を収集しリストを作る	
第11回	現場で出会う心理的諸問題(2) ⑭精神遅滞、⑮発達障がい(ADHD・高機能自閉症・アスペルガー症候群等)を中心に	発達障がいをテーマにしたビデオを観て、障がいについての考えをまとめる	
第12回	現場で出会う心理的諸問題(3) いじめ問題を中心に 重大事態についての対処についてディスカッション	重大事態のいじめ事件について、事件の背景、実態等について調べる	
第13回	教師の心のケア 教師の心の健康、ストレスケアマネジメント	教師の心の健康に関する問題について、新聞や雑誌から調べる	
第14回	園や学校での危機への対応 危機の対応と心のケア、PTSDの予防	PTSDと心のケアについて、新聞や雑誌から調べる	
第15回	保護者支援、地域支援 地域のネットワーク、他職種との協働	子どもの問題に対する地域コミュニティの取り組みについて調べる	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など		
定期試験	0%		
レポート	100% 期末レポート		
小テスト等	0%		
成果発表	0%		
受講態度他	授業の進行を妨げるような私語については、厳しく注意する。		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	授業外学修として出された課題は、各自ファイルを作成し整理する。提出を求め、点検をすることがある。		
教科書	なし 授業内容と関連した配付資料を毎回配布する		
指定図書	なし		
参考図書	長友久雄(編著) 『学校カウンセリング入門』 ミネルバ書房 向後礼子・山本智子 『教育相談ワークブック 子どもの育ちを支える』 ミネルバ書房		
オフィスアワー	火曜日の2時間目	メールアドレス	

授業科目	幼児理解【講義】	開講時期	後期
担当教員	板井 修一	単位	1
授業の目的と概要	<p>この授業は、初等教職課程授業科目の生徒指導、教育相談および進路指導等に関する科目の一つで、幼児理解の理論と方法について学ぶものである。</p> <p>具体的には、幼児期の子どもさまざまな心理的問題に的確に対応するために必要となる、幼児期の子どもの心理的特質と発達に関する基本的知識について習得することを目的とする。</p> <p>幼児期の子どもは、発達が未分化から分化の方向に向かう途上段階にある。言葉によるコミュニケーション能力が未熟であるために、遊びや行動観察をとおして、幼児理解を進めなければならないことを学習する。また、母子関係の発達の歪みによる問題も重要であり、母子関係を見る視点についても学習する。授業は講義形式で進めるが、映像資料を視聴することで理解を促す。</p>		
到達目標	<p>①子どもの発達と臨床の基盤となる理論を習得する</p> <p>②幼児理解の具体的な技法である、観察、面接の実際を理解し、身につける。</p>		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>(2) -①多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。「コミュニケーション・スキル」</p> <p>初C (3) -②-1 初等教育の専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。</p> <p>幼C (3) -②-1 幼児教育と保育の専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。</p> <p>関連する科目：発達心理学Ⅰ，発達と教育，教育相談</p> <p>この科目は障がい児福祉・心理相談の実務経験のある教員が担当しており、「授業の目的と概要」記載どおりの実践的教育を行います。</p>		
授業計画	授業内容	授業外学修など	
第1回	幼児理解の必要性 発達や適応に問題を持つ事例の提示とディスカッション 幼児理解の必要性の確認	幼児理解の欠如や不足から起きた事件・事故について調べまとめる	
第2回	幼児理解の基盤となる発達理論と発達の法則 基本的な発達理論 発達の法則	育児にまつわる「ことわざ」について、その意味について調べる	
第3回	身体発達とこころの発達 身体発達とこころの発達の関連	誕生から幼児期までの運動機能の発達について調べまとめる	
第4回	知性の発達 子どもは世界をどのように理解しているのか	子どもの世界理解(アニミズム等)を表す子ども独特の表現を収集する	
第5回	言葉の発達と意義 言葉以前のコミュニケーション 言葉獲得の道筋 言葉の役割	幼児期独特の言葉の問題と特徴について調べまとめる。	
第6回	子どもの人間関係 母子関係の成立 分離・独立 友達関係の広がり	自分の子ども時代のアルバムをもとに、自分の母子関係について考える	
第7回	幼児理解のためのアセスメント 行動観察 遊び 面接 遊戯療法	期末レポート作成のための資料収集	
第8回	さまざまな子どもの理解と保護者支援 さまざまな子ども(発達障がい等) 治療教育 保護者支援のポイント	期末レポート作成のための資料整理と執筆	
第9回	—	—	
第10回	—	—	
第11回	—	—	
第12回	—	—	
第13回	—	—	
第14回	—	—	
第15回	—	—	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など		
定期試験	0%		
レポート	80%(期末レポート60%、小レポート20%) 小レポートは、4回目終了時に課題を提示する。		
小テスト等	0%		
成果発表	0%		
受講態度他	20%		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	授業の妨害となる私語は厳しく注意する。 授業外の学習課題として小レポートの提出を求める。評価の対象とするので、遅滞することなく提出をするように。		
教科書	なし 毎回、レジユメを配付する。		
指定図書	なし		
参考図書	必要に応じ、適宜紹介をする。		
オフィスアワー	火曜日の2時間目	メールアドレス	